

様式第十八の八（第11条の4第6項関係）

変更後の認定事業適応計画の内容の公表

1. 変更認定をした日付

2023年7月4日

2. 変更後の認定事業適応事業者の名称

アイリスオーヤマ株式会社

3. 変更後の認定事業適応計画の内容

（1）事業適応に係る事業の目標

当社は、“快適生活”をコンセプトに置き、くらしに寄り添い新たな価値を創出し続けてきました。企画から製造・販売を手掛ける責任として自社施設と設備及びサプライチェーンにおいて、環境課題を抽出して会社全体で対策を推奨・実践し、この取組を通じて共に成長しながら豊かな地球環境の実現に貢献します。

（2）その事業の生産性を相当程度向上させること又はその生産し、若しくは販売する商品若しくは提供する役務に係る新たな需要を相当程度開拓することを示す目標。

2023年度より事業適応を開始し、2024年度（目標年度）までに、角田工場の炭素生産性を11.36%、裾野工場の炭素生産性を32.88%、埼玉工場の炭素生産性を37.01%向上させることを目標とする。

（3）財務内容の健全性の向上を示す目標

2024年度（計画終了年度）に、経常利益を計上することを目標とする。

（4）事業適応の類型

エネルギー利用環境負荷低減事業適応

（5）計画の対象となる事業（日本標準産業分類における中分類名称およびその分類コード）

角田工場：食料品製造業（中分類 09）

計画の対象となる事業は、主にパック米を製造するものであるため。

裾野工場：飲料・たばこ・飼料製造業（中分類 10）

計画の対象となる事業は、主に炭酸水、天然水を製造するものであるため。

埼玉工場：プラスチック製品製造業（中分類 18）

計画の対象となる事業は、プラスチック製品製造のための電力を賄うものであるため。

(6) 事業適応の具体的内容

角田工場において、計画初年度である2023年5月にパック米製造ラインを増設。パック米の販売量及び輸出量増加に伴い売上高・営業利益増加。また、2024年1月に太陽光発電自家消費設備を導入し、エネルギー起源CO₂排出量及びエネルギーコストの削減に寄与。これらの取組により、角田工場の目標年度の炭素生産性を11.36%向上させる。

裾野工場において、計画初年度である2023年7月に炭酸水製造ライン、10月に天然水製造ラインを導入。炭酸水・天然水の販売量増加に伴い、売上高・営業利益増加。これらの取組により、裾野工場の目標年度の炭素生産性を32.88%向上させる。

埼玉工場において、計画初年度である2023年10月に太陽光発電自家消費設備を導入。エネルギー起源CO₂排出量及びエネルギーコストの削減に寄与。この取組により、埼玉工場の目標年度の炭素生産性を37.01%向上させる。

(7) 事業適応の開始時期及び終了時期

開始時期：2023年4月

終了時期：2024年12月